****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 316 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2011.08.04（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1190 部**********

□ 目 次 □----------

＜巻頭言＞ 復興・再生プランに希望があるか 小泉浩郎
＜読者の声＞ 村山さんから
＜速報＞ 山崎農業研究所総会記念シンポジウム（2011/07/23）
1)「農地、農業施設被害とその対策」
山崎農業研究所 幹事 渡邊 博氏
＜お知らせ＞ 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました
＜編集後記＞ 無限の領域はどこにあるのか
西川潤著『グローバル化を超えて―脱成長期 日本の選択』
（日本経済新聞出版社刊）

＜巻頭言＞ 復興・再生プランに希望があるか

---

3 月 11 日の東日本大震災からまもなく 5 ヶ月になる。だが、一向に収束の方向は見えない。そうした中、政府から相次いで農業・農村再生の方針が出された。

「東日本大震災からの復興の基本方針（7 月 29 日）」と「わが国の食と農林漁業の再生のための中間報告（8 月 2 日）」である。有識者による十分な論議を経た報告だというが、果たしてこれでわが国の食と農林漁業の再生、わけても地震、津波、原発被害地の復興に希望の光を灯すことができたか。むしろ、将来の不安を助長することになっていないか。2 点指摘しておこう。

一つは、「平成の開国」と狼煙を上げた TPP 問題が、まだ健在である。両報告とも TTP という文言は避けているか、前者では「引き続き自由貿易体制を推進し…」とし、後者では「高いレベルの経済連携…」とした。その方向は少しも変わっていない。地球規模でのコスト競争に日本農業が勝てるか。

二つは、勝つために農林漁業の「競争力・体質強化―攻めの担い手実現、農

地集積―」をするという。復興方針では、農林水産業を「東北地方の基幹産業」と位置づけ、東北を「食料供給基地」として再生し全国のモデルにするとし、再生中間報告では農地の担い手への集積を促し「平地で 20～30ha、中山間で地域で 10～20ha の大規模経営体が大宗を占める構造を目指す」としている。それは現状の 10～20 倍の規模である。

被害のひどかった仙台市東部地区の被災農家 509 戸の直接面談による意向調査では（7 月 7 日）今後も農業を継続したい農家数は 81％（専業的農家 93％）を占める。市場開放と競争力ある経営体育成という復興・再生プランでは、帰るムラもない、働く場もない多くの人々が路頭に迷うことにならないか。

小泉浩郎
山崎農業研究所事務局長
yamazaki@yamazaki-i.org

＜読者の声＞　村山さんから

「電子耕」第 315 号にて　原田さんのご逝去を知りました。
謹んでご冥福を祈ります。
2011 年 7 月 22 日　村山登

＜速報＞　山崎農業研究所総会記念シンポジウム
期日：2011 年 7 月 23 日（土）
場所：　東京都新宿区四谷 3－5 不動産会館ビル 5F
テーマ：「東日本大震災と農業・農村」
話題提供者：
1)「農地、農業施設被害とその対策」
山崎農業研究所　幹事　渡邊　博氏
2)「福島－希望への道筋を探りながら」
「大地を守る会」　農産グループ長　戎谷徹也氏
3)「風評被害（東海 JCO～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」
農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）
代表　照沼勝浩氏（茨城・東海村）

1）農地、農業施設被害とその対策」

山崎農業研究所　幹事　渡邊　博氏

震災地の宮城県を４月から数回、さらに千葉県沿岸も地盤液状化、塩害などについてボランティアとして調査した。

石巻市では、大川地区、北上地区、の圃場整備中の農地被害、塩害被害地域がある。地盤地下したところは北上川と同じ水位になり、排水できない。南三陸町、仙台塩釜港、名取市、岩沼市、渡里町、山元町などでは、鉄筋建築も、破壊されている。同じ被害地域でも被害を受けたところと、受けないところがある。地形や屋敷林によって状況は大きく変わる。未だに（4 月）死体が日に 10 人くらい発見さている悲惨な状況にある。

被害水田には赤ヘドロが沈積したところもある。海からの泥土で、この排除は容易でないと思われる。灌漑用水関係ではパイプラインの損傷が目立つ。これとくらべ、開水路には大きな被害がないのが特徴であった。岩沼市でも地盤沈下は激しかったが、開水路は無事であった。

亘理町では電気系が切れて地区排水が出来ない状態にあった。山元町では RC 建築が海岸から逆流してきたコンクリート片で破壊された。亘理、山元、両町は砂丘に恵まれてイチゴ栽培が盛んなところである。特産「夢イチゴ」のハウスが奇跡的に残ったところもあるが、壊滅状態にある。イチゴ栽培農家は将来も条件のよい、ここを離れることは出来ないという。

千葉県では液状化の地域を調べた。液状化で砂層農道に亀裂が入り破壊された。塩害地の水田を調べたところ、塩分による電気伝導度 Ec の増大、pH は減少（酸性化）が顕著であった。地盤沈下地は排水不良となって、除塩すら簡単でない。

今後の対策として、排水には弾丸暗渠やソダ暗渠（松、スギ枝）も考えられる。水田の土壌改良を行わざをえないだろう。ゼオライトを混ぜると塩素イオン（Cl）が吸着され、透水性の向上にもなると思う。土壌改良には牧草のソルガム、ナノハナ栽培なども考えられる。防潮堤は 80%位は破壊された。防潮林は津波対策には有効であり、今後、植林は大いに期待される。

以上全体から見て、これらの地区の復旧には少なくとも 5 年はかかると思う。

復旧対策には「減災害対策」をも含め、専門家の意見を十分聞き、また将来を考えて地元の意見を十分反映させたい。そして東京の生産基地としてはでなく、地元の真の発展のための復旧計画が大切である。今回の災害ほど科学技術者と地元が一体となる必要性を感じる時はない。

(文責　安富、田口)

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.125』が発行されました。
今号では、東日本大震災を特集しています。
研究所ホームページから、目次を見ることと、記事の一部のダウンロード（無料）ができます。また、ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

http://www.yamazaki-i.org

目次（抜粋）
《土と太陽と》（巻頭言）
東日本大震災と農業・農村復興……安富六郎
〔特集〕どう向き合うか 東日本大震災
・被災地を歩いて―災害の被害者から復興の当事者へ……小泉浩郎
・東日本大震災による農地と農業インフラの被災状況……渡邊 博
・土壌の放射能汚染をどう考えるか
　―現場での対応を中心に……編集部・森敏
・エネルギーは社会の根本問題……関 曠野
・震災から森と住まいの文化を考える……大内正伸
・大震災と住民自治……鳥越皓之
・「持続型地域」建設ビジョンをどう描くか……千賀裕太郎
・引き受けるものと選択するもの……宇根 豊

＜編集後記＞　無限の領域はどこにあるのか
西川潤著『グローバル化を超えて―脱成長期 日本の選択』
（日本経済新聞出版社刊）

「脱成長」とは何か。本書で著者は「〔脱成長は〕経済成長を否定する言葉ではない。……だが、経済成長＝富として、成長により社会問題が解決するという思い込みがまかり通った時代は終わった」とし、脱成長とは「新しい豊かさへのビジョン」だという。

無限の経済成長を前提とし、市場の有限性にあらがおうとしたグローバリゼーションは陰りをみせている。国家間および国内での格差の拡大、国際的な金融不安、そして環境への負荷など、いずれも深刻な様相を呈している。

今日、日本はまた、東京電力福島第一原発事故の影響にあえいでいる。原発はエネルギー資源の有限性を乗り越えようとしたが、今回の事故でその根本的な危険性を露呈した。そういった意味において、「脱成長」は「脱原発」同様、リアルな問題提起なのである。

市場もエネルギーも有限というと閉塞感を覚える人もいるかもしれない。だが、本書を読みすすめていくと、無限の領域があることに気づかされる。それは人間の想像力であり、他者に共感する心である。そうした人間性に根ざした世界的な動向について著者は詳細に検討する。

経済グローバリゼーションに対抗する「グローバル市民社会」の登場や、NGO、NPO を中心とした「連帯経済」の発展、地域内での連携や持続可能性を志向した都市の再生、コモンズをたいせつにするコミュニティづくりを通じた環境の再生・保存、エンパワーメントや社会的ネットワーク形成による女性解放など――がそれだ。

本書を貫く精神、それを一言でいえば、尽きることのない人間性への全幅の信頼なのだ。

西川潤著『グローバル化を超えて―脱成長期 日本の選択』
http://www.nikkeibook.com/book_detail/35247/
日本経済新聞出版社刊
四六版、上製、434 ページ
2,625 円（税込み）
978-4-532-35247-9
2011 年 6 月発売

2011 年 08 月 04 日
山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記　“あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』
http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（（株）共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 317 号の締め切りは 08 月 22 日、発行は 08 月 25 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 316 号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html
http://nazuna.com/tom/denshico.html

購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2011.08.04（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
**********ここまで『電子耕』**********